

施策27 義務教育の充実

作成日: 平成21年7月24日	主管課名: 教育委員会学校教育課
-----------------	------------------

施策名称	主管課	施策の対象	施策の対象指標	施策の意図	施策の成果指標	実績値(H17)	実績値(H18)	実績値(H19)	実績値(H20)	単位	目標値(H20)	目標値(H21)	目標値(H22)	取得方法	指標取得主管課・係	算定式・取得先等	施策の20年度目標達成度とその要因	施策の22年度目標達成に向けての課題
27 義務教育の充実	学校教育課	小中学校児童生徒	小学校児童数 中学校生徒数	「知・徳・体」の調和が図られ、人間性豊かに成長してもらう	標準学力テスト(国語・算数・数学)の全国偏差値	小学生国語	53.2	53.4	52.4	52.6	偏差値	成 52.4 目 52.8	成 52.4 目 52.8	成 52.4 目 52.8	業務取得	学校教育課	・5～6月に実施される学力標準テスト(NRT)で、全国偏差値を算出。小学校2・5年生と中学校2年生の全児童生徒を対象に全国標準学力検査と知能検査を実施し、主要科目(国語、算数、数学)の偏差値を成果(指標)としている。 (例年7月に数値が固まる)	標準学力テスト(小学校・国語・中学校・数学)の向上 ・運動能力テスト(中学校・女子)の向上に向けた各校において実態把握を行い、きめ細かな指導の徹底と補充指導等の対策をこころいいたい。 ・平成22年度に向けて、標準学力テストの実績値については、小学校の算数、中学校の国語は達成状況にある。これは、市独自の少人数指導講師配置事業の成果の現れと考えることができることから継続していきたい。小学校の国語、中学校の数学については、年度目標値より下回っていることから、各校において実態把握を行い、きめ細かな指導の徹底と補充指導等の対策をこころいいたい。 ・「徳」については、「わかる授業」を推進し、一人一人の生徒に存在感・充実感を味わわせる教育活動の展開に努め、「キャリア教育」の充実と生徒指導の充実を図る。 ・「体」については、運動能力テストによる実態を踏まえ、感覚づくりや動きづくりをしていく中で、柔軟性や巧みな動きを高めるなど体力と運動能力の向上を図る。
						小学生算数	53.3	53.9	53.0	53.3	偏差値	成 51.3 目 52.0	成 51.3 目 52.0	成 51.3 目 52.0				
						中学生国語	51.6	50.6	53.0	53.4	偏差値	成 51.6 目 52.0	成 51.6 目 52.0	成 51.6 目 52.0				
						中学生数学	47.4	48.2	49.4	49.6	偏差値	成 48.3 目 50.3	成 48.3 目 50.3	成 48.3 目 50.3				
					運動能力テストでの全国平均を上回っている種目数	小学校男子	16/48	23/48	20/48	29/48(管内)	種目	成 16/48 目 19/48	成 16/48 目 19/48	成 16/48 目 19/48				
						小学校女子	28/48	34/48	31/48	39/48(管内)	種目	成 28/48 目 29/48	成 28/48 目 30/48	成 28/48 目 30/48				
						中学校男子	17/24	17/24	19/24	20/24(管内)	種目	成 17/24 目 20/24	成 17/24 目 20/24	成 17/24 目 20/24				
						中学校女子	19/24	21/24	18/24	18/24(管内)	種目	成 19/24 目 21/24	成 19/24 目 21/24	成 19/24 目 21/24				
					自分らしさを学校で発揮している児童生徒の割合	小学生	61.8	68.8	(68.8)	73.8	%	成 63.0 目 70.0	成 63.0 目 70.0	成 63.0 目 70.0				
						中学生	56.0	50.7	(50.7)	60.3	%	成 55.0 目 65.0	成 55.0 目 65.0	成 55.0 目 65.0				

基本事業名称	主管課	基本事業の対象	基本事業の対象指標	基本事業の意図	基本事業の成果指標	実績値(H17)	実績値(H18)	実績値(H19)	実績値(H20)	単位	取得方法	指標取得主管課・係	算定式・取得先等	基本事業の成果水準とその背景	基本事業の成果実績に対するこれまでの主な取り組み(事務事業)の実績	
1 学校施設・設備の整備・充実	学校教育課	小中学校児童生徒 小中学校	小学校児童数 中学校生徒数 学校数	安全・快適な学習環境がある	(小学校)校舎の耐震化整備率	28.3	28.3	30.4	30.4	%	業務取得	学校教育課	・(昭和56年以降の校舎数+耐震診断一次審査合格した小学校校舎棟数+耐震工事を終了した小学校校舎棟数)/全小学校14校の校舎棟数46棟、対応率=対応件数/(学校からの要望件数+教育委員会判断件数) ・また老朽化した盛小学校改築の実施設計を行った。 ・(昭和56年以降の校舎数+耐震診断一次審査合格した中学校校舎棟数+耐震工事を終了した中学校校舎棟数)/全中学校8校の校舎棟数26棟	・小中学校合わせた校舎・屋内運動場の耐震診断実施率は、88.9%であり、耐震化整備率は41.7%である。 ・学校施設の耐震1次診断は、当面改築が予定されていない昭和56年以前の小中学校の校舎、屋内運動場を対象として実施した。1次診断でIs値が、0.3未満の校舎6校、屋内運動場2校について耐震第2次診断を行った。 ・また老朽化した盛小学校改築の実施設計を行った。 ・小中学校長からの施設設備要望への対応率は、小学校33.0%、中学校40.6%である。経年劣化の校舎があり、各校の要望に対しても緊急度、優先度を勘案して進めている。 ・当面は合併設計計画に登載されている盛小学校校舎、吉浜小学校屋内運動場に係る建替事業の推進を図る。他の施設にあつては、緊急度優先度を勘案し、検討を深める。	主な事務事業は以下のとおり ・教育施設、教材等整備事業 ・大船渡中学校下水道切替事業 ・末崎小学校屋根改修工事 ・越喜来小学校プール防水工事 ・20年度の施設改修では、大船渡中学校下水道切替工事、末崎小学校屋根改修工事、越喜来小学校プール防水工事を行った。また、盛小学校校舎改築の実施設計を行った。 校舎の耐震化については、耐震第2次診断を実施した。学校からの施設・設備要望にも対応している。	
					(中学校)校舎の耐震化整備率	61.5	61.5	61.5	61.5	%						
					(中学校)学校長からの学校施設・設備要望への対応率	64.9	46.9	40.6	40.6	%						
2 生涯学習の基礎を培う教育の推進	学校教育課	小中学校児童生徒 小中学校 家庭 地域	小学校児童数 中学校生徒数 学校数	個性が生かされる	自分らしさを学校で発揮している児童生徒の割合	小学生	61.8	68.8	(68.8)	73.8	%	児童生徒からのアンケート	学校教育課	・市内の小学校5年生と中学校2年生への児童生徒の実態調査アンケートより把握	・小学生、中学生ともに「自分らしさを学校で発揮できている」、子どもが増加している。小学生は、遊んでいるとき、中学生は、部活動をしているときが、最も自分らしさを発揮できるとしている。授業時間や係活動のときと回答している割合は少ないが、小中学生とも、以前と比較するとその割合が増えている。さらに、自分らしさを素直に発揮できるよう、学級やクラブ内での人間関係づくりに積極的に取り組む必要がある。	主な事務事業は以下のとおり ・総合的な学習の時間、推進事業 ・心の教室相談員配置事業 全8中学校に8名配置 ・教育相談員配置事業 3名の相談員の配置 上記のほか参考事務として ・指導関係事業(市内児童生徒意識調査)
					中学生	56.0	50.7	(50.7)	60.3	%						
3 社会変化に対応した教育の推進	学校教育課	小中学校児童生徒 小中学校 家庭 地域	小学校児童数 中学校生徒数 学校数	社会の変化に対応できる	1児童生徒当たりの平均国際理解教育授業数	小学生	2	2	2	2	回	業務取得	学校教育課	報告書から、1児童生徒あたり年間何回授業を受けたかを算出	・外国語指導助手(ALT)を2名配置し、指導を行っている。小学校では、国際理解教室として、1人あたり年間2回、中学校では年間40日程度の指導を行っている。 ・IT活用は、小学校では、総合的な学習の時間、中学校では、技術家庭科を中心に週2回程度で活用している。 ・当市のパソコン整備率は県下でもトップクラスであり、各校のパソコン教室には1人1台の活用が図られている。また、教員への整備率もトップクラスである。 ・研究授業や講師を招いた操作講習会等年に3回開催し、コンピュータを活用した授業のあり方や教職員に対するコンピュータ技能の向上を図った。 ALTの持つアイデアを数多く引き出し、ティーチングプランを練り、チームとしての授業運営を目指した。	主な事務事業は以下のとおり ・外国青年招致事業 ・コンピュータ活用研究事業 ・授業研究会、学習会を計3回開催 ・教育用コンピュータ整備事業 ・市内の小中学校内にパソコン及びLANの整備を行う。
					中学生	40	40	40	40	回						
4 心豊かでたくましく生きる人間の育成	学校教育課	小中学校児童生徒 小中学校	小学校児童数 中学校生徒数 学校数	豊かな人間性が培われる 健康でたくましく成長できる	学校にいつも行きたくないと答えた児童生徒の割合	小学生	3.3	2.1	(2.1)	3.7	%	児童生徒からのアンケート	学校教育課	いつも、ときどき、たまに、思うこととはないの選択肢のうち、「いつも」を答えた児童生徒の割合で把握	小中学生共に、行きたくないと思ったことがない」と回答した割合が、前年度と比較増加している。同時に、小学生では、いつも行きたくない」と思っている割合が前年度と比較増えている。仲の良い友だちがいらない等の悩みが挙げられる。	主な事務事業は以下のとおり ・少人数指導事業 7校に8名の非常勤講師の配置 ・学校給食事業(小中学校) ・児童乳幼児ふれあい交流促進事業 ・特別支援教育支援員配置事業 3校に3名の非常勤講師の配置 ・小中学校体育文化活動出場補助事業
					中学生	4.4	7.3	(7.3)	5.4	%						
5 地域の特性を生かした学校づくりの推進	学校教育課	小中学校 家庭 地域	学校数	学校教育に対する地域の理解と協力がある	教職員の学校評価結果を地域へ公開している学校の割合	小学校	50.0	64.2	57.1	71.4	%	業務取得	学校教育課	学校長から把握	学校の外部評価結果を地域へ公開している学校の割合は、小学校が71.4%、中学校が62.5%となっている。	・家庭や地域と協働する学校経営に取り組み、特色ある地域との連携による学校経営を推進した。 ・いわてコミュニティ・スクール推進事業を小学校5校で実施した。 ・伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業を中学校1校で実施した。
					中学校	37.5	37.5	62.5	62.5	%						